沖縄キリスト教学院大学　2024年度満足度調査
人文学部　英語コミュニケーション学科

調査期間：
２０２５年１月６日（月）～
２０２５年１月２４日（金）

検証内容

今年度卒業の学生を対象として満足度調査を行った。質問にはカリキュラムの適切性や施設・設備・制度に関するもの、学生生活に関する質問を設けている。得られた回答は集計し項目毎の平均値を前年度のデータと比較した。また、本調査では、学修成果の到達度を学生に自己評価してもらっており、その結果と他の学内データと照らし合わせて総合的に分析した。

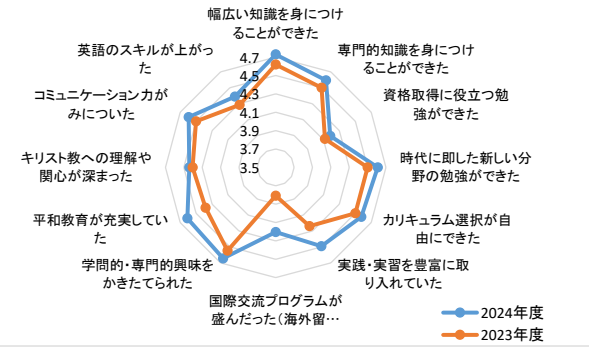
【アンケート回収率81.9%】(前年度73.0%)

【カテゴリ毎の満足度】

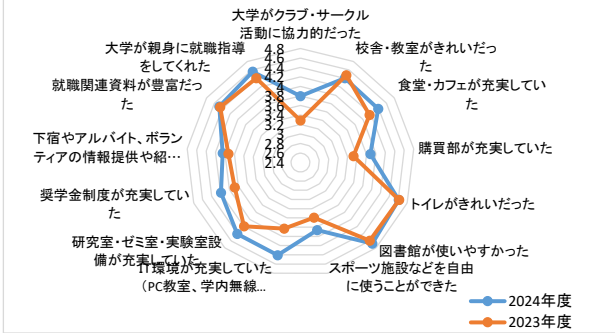
各数値の基準
満足：5、やや満足：4、どちらともいえない：3、やや不満：2、不満：1

そう思う：5、ややそう思う：4、どちらもいえない：3、あまりそう思わない：2、そう思わない：1

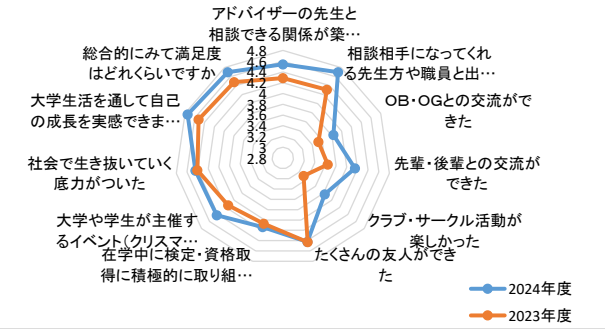
カリキュラムの適切性



施設・設備・制度に関する満足度



大学生活に関する満足度



【学生からのコメントのテキストマイニング】

《一番学びの大きかったこと》

《早くに知っておきたかったことやつまづきを感じたこと》

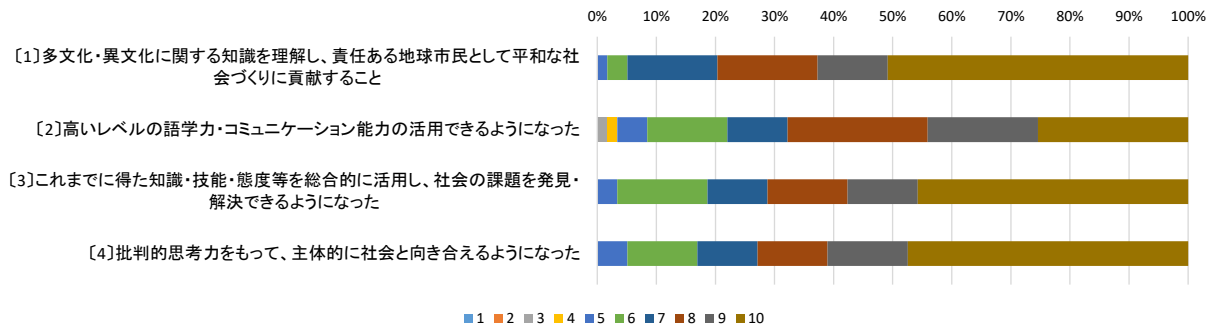
それぞれの項目の平均値を出し、前年度の平均値とその変化率を計算し違いをみていきます。

【カリキュラムの適切性】
12項目中、すべての項目が前年度より上がっており、前年度に比べて満足度が改善しているといえる。
また、変化率が5%を超える項目は次の3つであった。
・実践・実習を豊富に取り入れていた(6.0%) / ・国際交流プログラムが盛んだった（海外留学・研修）(10.3%)
・平和教育が充実していた（5.2%）

【施設・設備・制度に関する満足度】
13項目中、前年度より上がったのが10項目、下がったのが3項目であり、変化率が5%を超える項目は7つであった。
・大学がクラブ・サークル活動に協力的だった（15.7%） / ・食堂・カフェが充実していた（5.4%） /
・購買部が充実していた（10.1%） / ・スポーツ施設などを自由に使うことができた(7.5%) /
・IT環境が充実していた（PC教室、学内無線LAN環境等）(15.0%) /
・研究室・ゼミ室・実験室設備が充実していた(5.2%) / ・奨学金制度が充実していた(7.9%)
前年度より下がった項目があったものの、その変化率が極めて低いことから学生の満足度は改善しているといえる。

【大学生活に関する満足度】
11項目中、前年度より上がったのが10項目、下がったのが1項目であり、変化率が5%を超える項目は次の6項目であった。
・アドバイザーの先生と相談できる関係が築けた（6.0%） / ・相談相手になってくれる先生方や職員と出会えた(8.9%) /
・OB・OGとの交流ができた(8.7%) / ・先輩・後輩との交流ができた(14.9%) /
・クラブ・サークル活動が楽しかった(15.7%) /
・大学や学生が主催するイベント（クリスマス、キリ学祭等）に参加できた(6.8%)
前年度から下がった項目が1つであったこと、下落率がわずかであったことから学生の満足度が改善しているといえる。

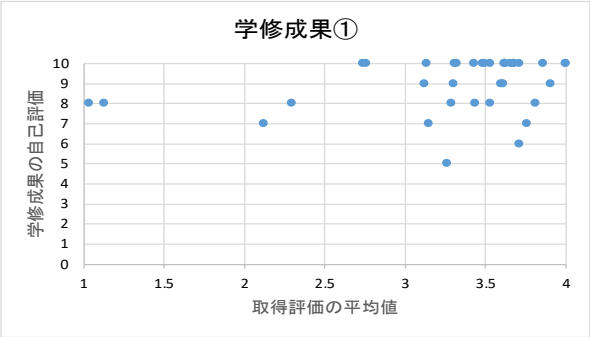
学修成果の自己評価

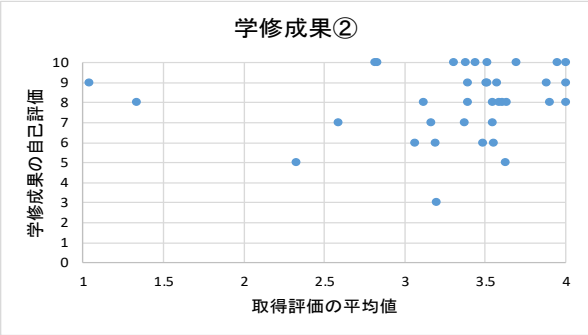


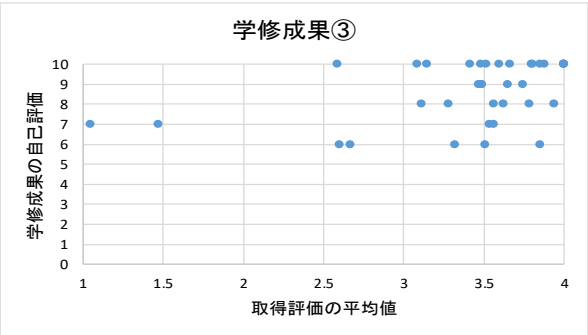
学生に対し本学で定める学修成果が卒業時にどれだけ身についたかを10段階で評価してもらった。

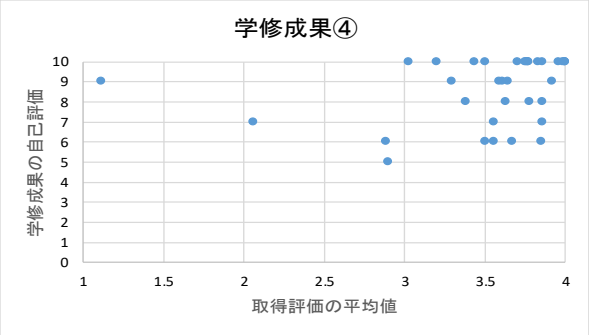
学修成果[1]において評価7以上で回答している学生の割合が約9割以上おり、とても達成度が高いといえる。そのほかの学習成果においても、評価6以上で回答している学生の割合は9割以上、評価7以上で回答している割合は8割と高い自己評価であった。

学修成果[1][3][4]の3つについては、評価10と回答している割合が半数程度おり、これらの学習成果については自己評価が高いことが顕著に表れている。どの学習成果も学生が高い達成度を感じていることがうかがえる。









この散布図は、縦軸が学生による学修成果の自己評価（10段階）で、横軸が各学生の成績の平均値を表しています。この平均値は、各学修成果に紐付けられている科目の成績を集計しており、これにより学修成果毎の自己評価（主観的データ）と、実際の成績（客観的データ）との関連をみることができる。

学修成果①から④の散布図からは、ばらつきの違いはあるが右上に点が集まっており、取得評価の高い学生が学習成果に対して高い自己評価をしているようにみえる。特に学習成果①と学修成果④にはこの現象が強くみられる。しかし、取得評価と学習成果の自己評価の間の相関係数は低く(0.02～0.37)であり、0.4以上（もしくは-0.4以下）が相関有りとされる中で、今回の結果は数値的にも相関が全くないといえる。